RYOBI

CI-495E

ダイオキシン対策型

アースクリーン焼却炉

取扱説明書

バーナーは別冊



ご使用前に、この説明書をよくお読みいただき正しくお使いください。
本書はお読みになった後も大切に保管してください。

はじめに

このたびは、弊社製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。本機を末永くご愛用頂けますよう、この取扱説明書を熟読の上ご使用くださいますようお願い申し上げます。

なお、バーナーにつきましては、別冊のバーナー取扱説明書をお読みください。
また、製品の向上には絶えず努力を傾けております。従いまして製品改良のため、仕様など予告なく変更する場合がありますのでご了承ください。

目次

		ページ
	はじめに	1
1.	安全にお使いいただくために	2～3
2.	仕様諸元	4
3.	外観寸法及び各位の名称	5
4.	設置方法と組立方法	
	1） 準備	6
	2） 設置方法	7
	3） 組立方法	8～9
	4） 燃料パイプの組み付け	10～11
5.	運転方法	
	1） 燃料タンクに白灯油を入れる	12
	2） 着火手順	12～17
	3） 投入口使用方法	18
	4） 燃焼温度の確認	19
	5） 消火手順	20
6.	保守・点検	21
7.	故障かな？と思ったら 現象とその対応	22
8.	外気遮断投入機投入ハンドル組み付け要領	23
9.	温度センサー組み付け調整 要領	24

1．安全にお使いいただくために

安全に効率よくご使用いただくために、ご使用前に本取扱説明書の安全に関する注意事項をよくお読みください。
使用上の注意事項、本機の能力、使用方法など十分ご理解の上で、正しく安全にご使用くださいますようお願い申し上げます。

安全に関する表示について（安全に関する注意事項）
本書では、運転者や他の人が障害を負ったりする可能性のある事柄を下記の表示を使って記載し、その危険性や回避方法などを説明しています。
これらは安全上、特に重要な項目です。
必ずお読みいただき指示に従ってください。

⚠ 危険　指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

⚠ 警告　指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

⚠ 注意　指示に従わないと、障害を受ける可能性のあるもの

基本的注意事項　　安全の為にこれらの注意事項を守ってください。

⚠ 警　告
過労・飲酒時の作業禁止 過労や睡眠不足で体調が悪いときや、飲酒時・薬物飲用時の作業は、注意力が散漫になり、事故につながります。 体調が悪いときや、飲酒・薬物飲用時の作業は行わないでください。
きちんとした服装･保護具の着用 だぶだぶの服・装飾品など機械部品に引っかかる可能性のあるもの又、油などの付着した作業着は引火しやすいので着用しないでください。
改造はしないでください 弊社の承認の無い改造は、安全上問題になることがあります。 許可の無い改造に起因する、人身事故や故障については責任を負いかねます。

⚠ 危　険

◎　危険物の焼却炉への投入禁止
○　引火性の高い物…ガソリン・シンナー・ベンゼン・エチルアルコールなど
○　爆発が起こりえる物…スプレー缶・火薬・密閉された缶など
○　毒物…水銀・ヒ素・黄リンなど
○　劇物…クレゾール・トルエン・硝酸など
○　上記以外にも、危険性のある物

⚠ 警　告

本機の故障や近隣の方々に御迷惑をおかけすることを避けるために、
下記使用法を必ずお守りください。

○　絶対に投入口、灰出し扉を開けた状態で焼却しないでください。
○　絶対に塩素系化合物は、焼却しないでください。
○　1時間あたりの焼却能力以上は、焼却物を投入しないでください。
○　プラスチック類の焼却は、焼却量の質量比で5%以上燃やさないで
　　ください。

⚠ 注　意

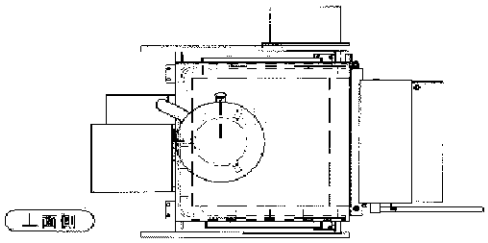
○　焼却中は、2次燃焼バーナー及び送風スイッチ及びブロワースイッチを
　　必ず『ON』の状態で使用してください。
　　（バーナー部の故障原因となります。）
○　使用前に燃料タンクの残量確認し不足する場合は適正補給してください。
　　燃料タンクは出来るだけ満タンにしてください。
　　（燃料切れが起きるとポンプの破損原因となります。）
○　使用状況により、耐火セメント表面の薄皮がむけた様になることが
　　ありますが異常ではありませんのでそのままご使用ください。
○　煙突傘の金網が目詰まりしているときは、金網を掃除又は交換して
　　ください。

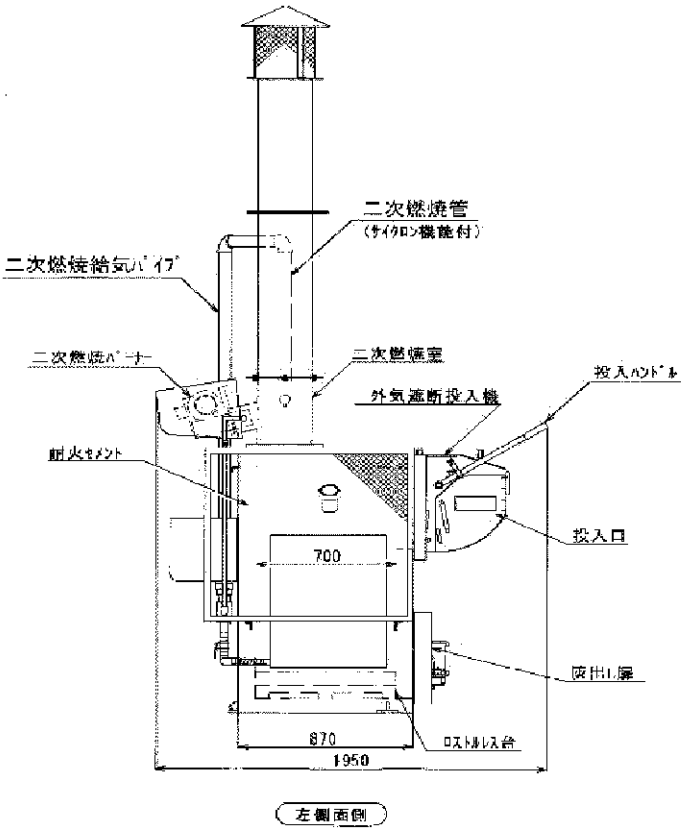
上記使用方法をおこなわず故障になった場合は、保証の対象に
なりませんのでお気をつけてください。

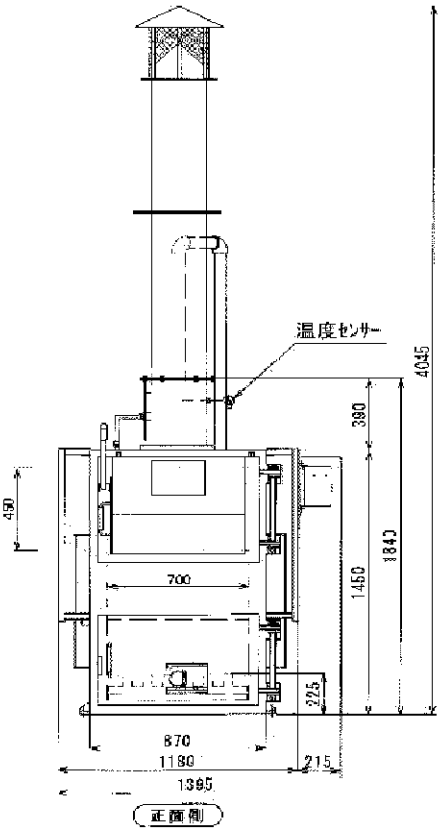
2. 仕 様 諸 元

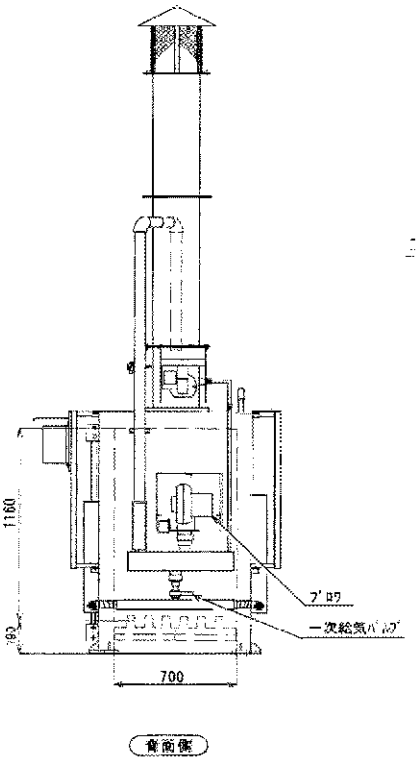
型式	CI495E
焼却能力	49.5ｋg/ｈ
全長	1,950mm
全幅	1,395mm （ｽｲｯﾁﾎﾞｯｸｽを含む）
全高	4,045mm （傘を含む）
投入機投入口寸法 （投入口寸法）幅×高さ	半径380mmの1/4の扇面積 （700×450mm）
本体質量 （燃料タンクを除く）	約1,670kg
ロストル面積	0.49㎡
一次炉内容量 （一次炉内寸法）	0.57㎥ （0.7×0.7×1.16m）
使用燃料	白灯油
燃料タンク容量	90L
燃料消費量	4～6L/ｈ
電源	AC100V 50/60Hz
消費電力	438W

3. 外観寸法及び各部の名称





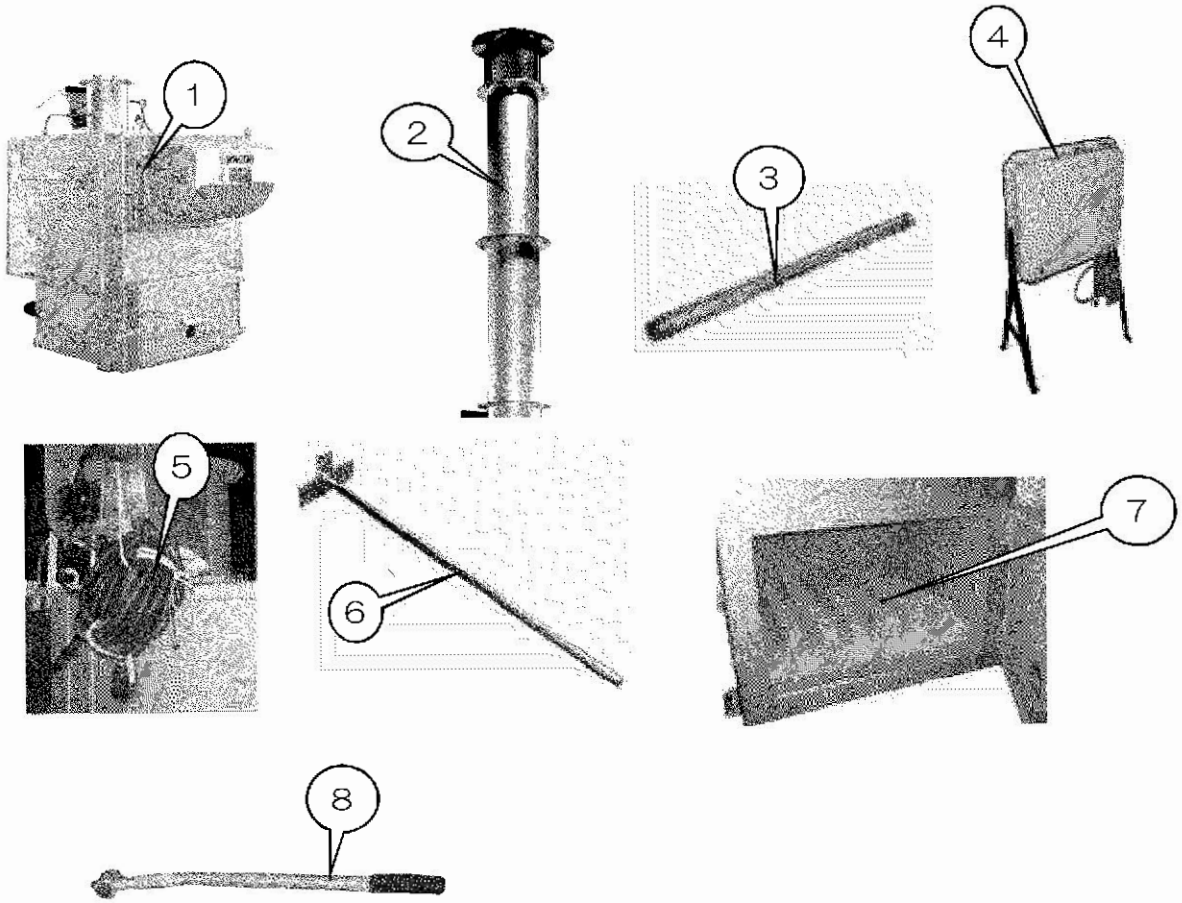




4. 設置と組立方法

1） 準備

最初に、ご購入いただきました焼却炉の部品が全て揃っていることを
ご確認ください。

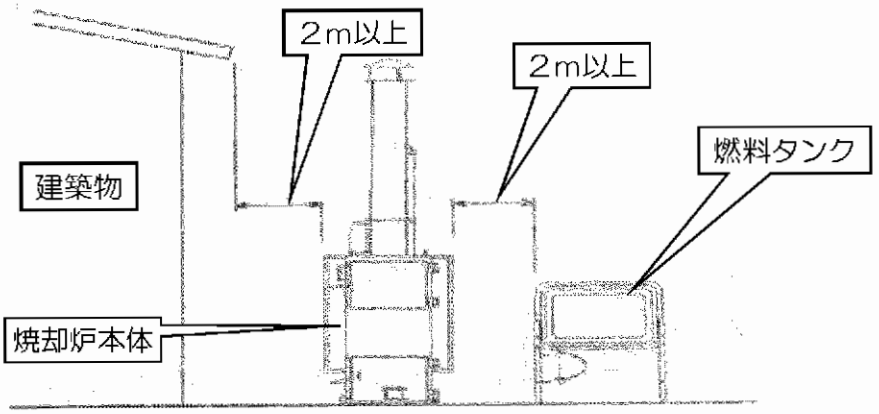


		数量
(1)	炉 本 体 （図：CI495E）	1
(2)	煙 突 （傘及び傘用金網付・煙突2分割）	1
(3)	二次燃焼給気パイプ	1
(4)	燃料タンク	1
(5)	電気ケーブルと燃料パイプ（通常はバーナーにセット済）	1
(6)	灰掻き出し棒	1
(7)	ロストルレス台（炉内にセット済）	2
(8)	投入ハンドル	1

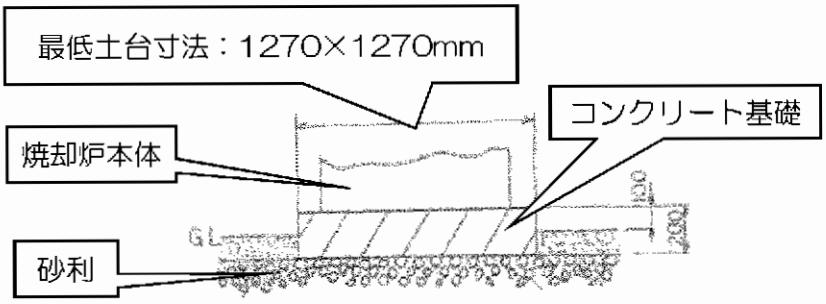
2） 設置方法

⚠ 危 険

焼却炉と建築物との保有距離
消防法では焼却炉（釜戸・炉等）の設置は火災防止上、建築物から安全な距離を保つことが定められております。
又、各地方公共団体が独自に安全な距離を定めている場合もありますので確認してください。
（定められている保有距離が下記以上の場合は、そちらを参考にしてください。）
本焼却炉では最低保有距離を下記の通りと致します。



焼却炉本体と建築物等及び燃料タンクの保有距離は２m以上としてください。
但し、前方は３m以上の保有距離で設置してください。
防火壁を設ける場合もその距離を保ち、通風のため四方を塞ぐ事は絶対に避けてください。
又、必ず屋外に設置してください。
設置場所が軟弱な場合は、下記図を参考に基礎を作ってください。



設置は平坦な場所を選び、本体と燃料タンクは電気ケーブルと燃料パイプが無理がなく接続できる範囲で位置を決めてください。
（必ず2m以上距離を保ってください。）

⚠ 危 険

本体と燃料タンクは必ず2m以上距離を保ってください。

3） 組立方法

（1） 煙突Aに二次燃焼給気パイプを
ねじ込み、取り付けてください。

（2） 炉体後部に取り付けてあるサドルを、
ボックススパナ又はメガネレンチで
外してくださ い。

※図①参照
※ボルト（M6×30）、スプリング
ワッシャー（M6）

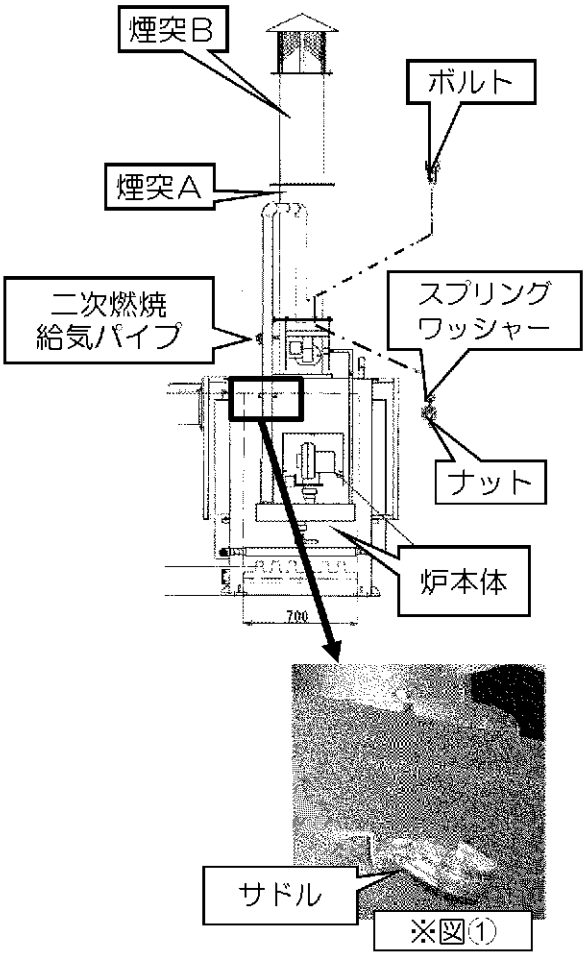
（3） 煙突と二次燃焼室に取り付けてある
ボルト(M10×30　6本)、スプリン
グワッシャー（M10）、ナット（M
10）各12個を取り外してくださ い。

煙突Ａを二次燃焼室に乗せ、
二次燃焼給気パイプがサドル取付位
置に来る様に位置合わせてください。

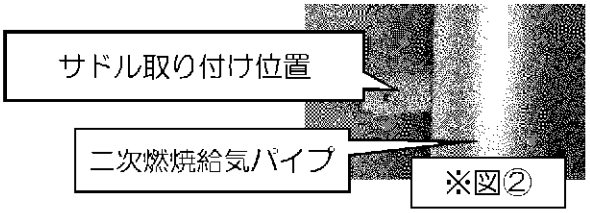
※図②参照

その後、取り外したボルトで煙突Aを
固定してください。

煙突Ｂを組み付けしてください。

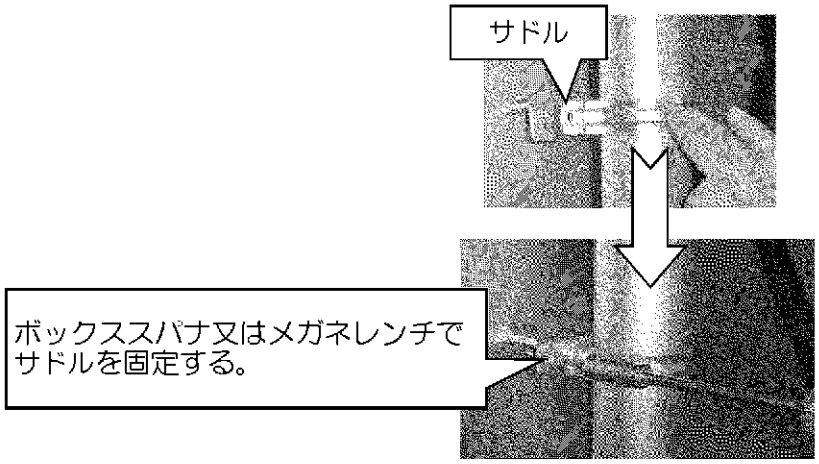


※図①

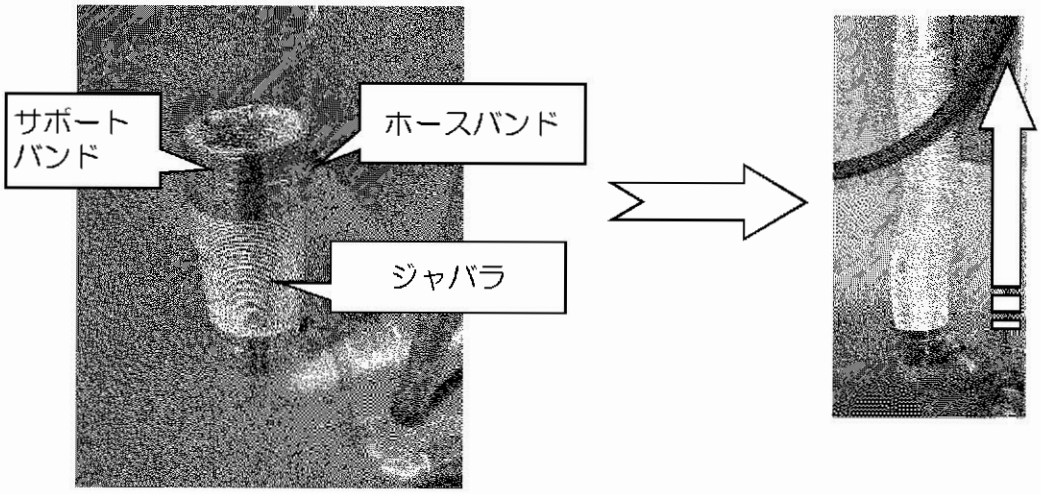


※図②

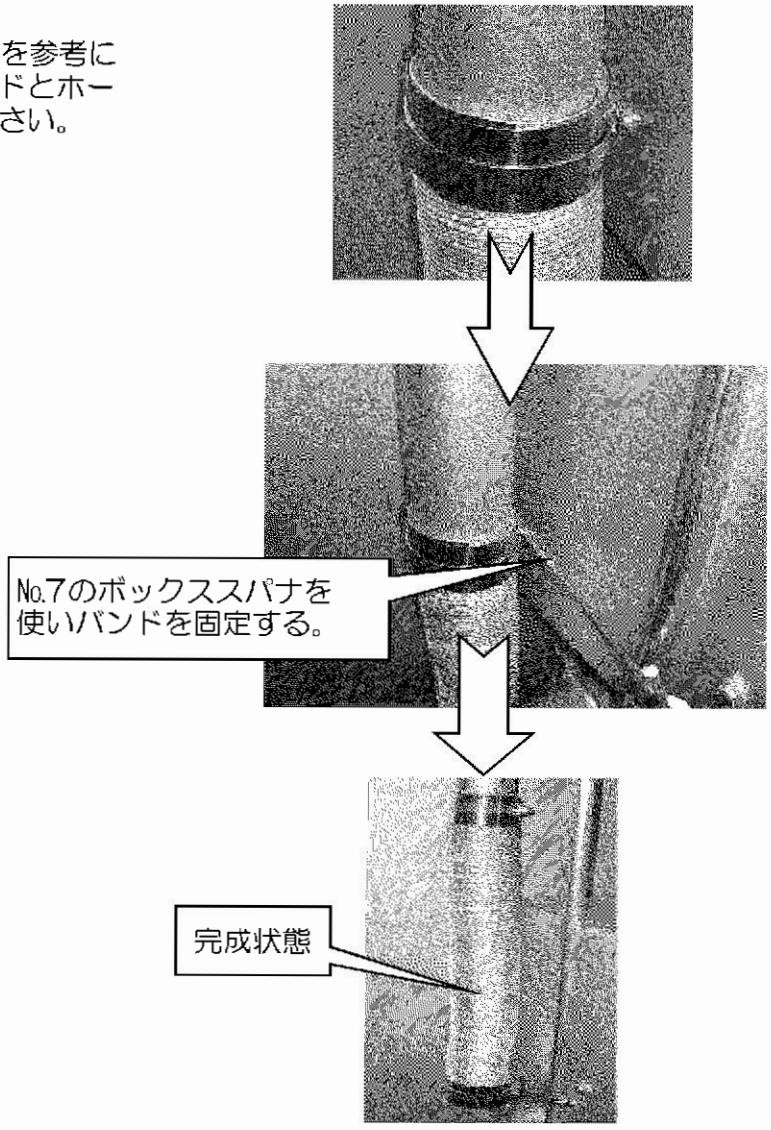
（4） （2）で外したサドルを使い、
二次燃焼給気パイプを固定してください。



（6）炉体のブロワー側配管に取り付けているジャバラの
ビニール袋を外し、上に延ばし二次燃焼給気パイプに
挿入してください。



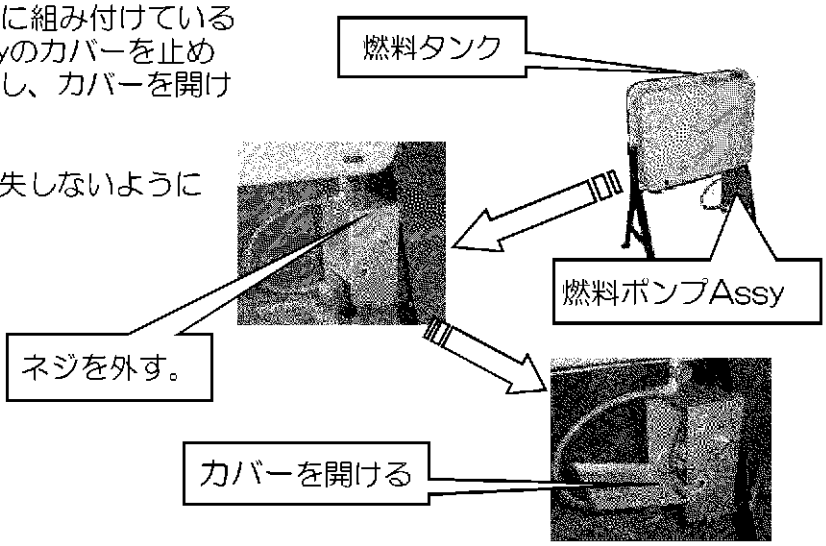
（7）ジャバラ下部の固定方法を参考に
ジャバラをサポートバンドとホー
スバンドで固定してください。



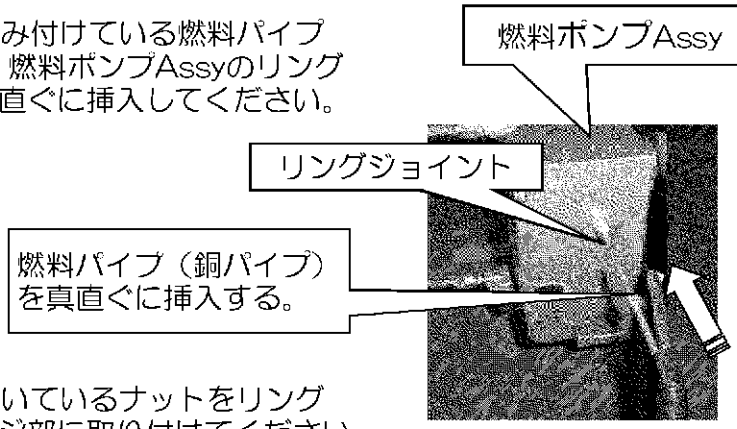
4） 燃料パイプの組み付け

（1）燃料タンクの下に組み付けている燃料ポンプAssyのカバーを止めているネジを外し、カバーを開けてください。

※外したネジは紛失しないようにしてください。



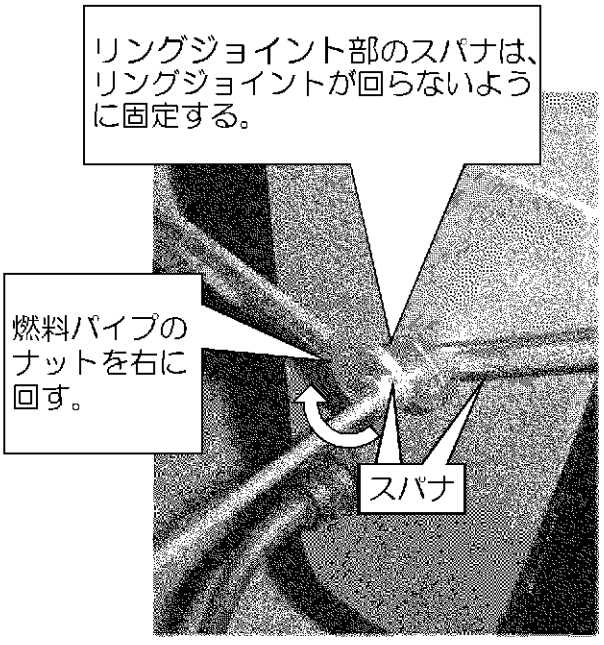
（2）バーナー部に組み付けている燃料パイプ（銅パイプ）を、燃料ポンプAssyのリングジョイントに真直ぐに挿入してください。



（3）燃料パイプに付いているナットをリングジョイントのネジ部に取り付けてください。

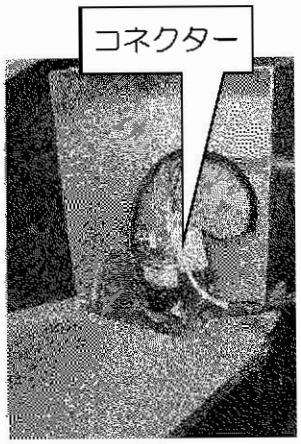
（4）リングジョイントの六角部及び燃料パイプのナットをスパナ（サイズ：12mm）２本を使用して、固定してください。

> ⚠ 注 意
>
> 燃料パイプは真直ぐに挿入してください。
> ナットを固定するときには、ナットを締めすぎるとパイプ部品が変形し燃料漏れの原因となりますので、ナットを指で締まるところまで締めその後、スパナで締め付けしてください。



（5）燃料ポンプ側コネクター（オス）とバーナー側コネクター（メス）を差し込み接続してください。

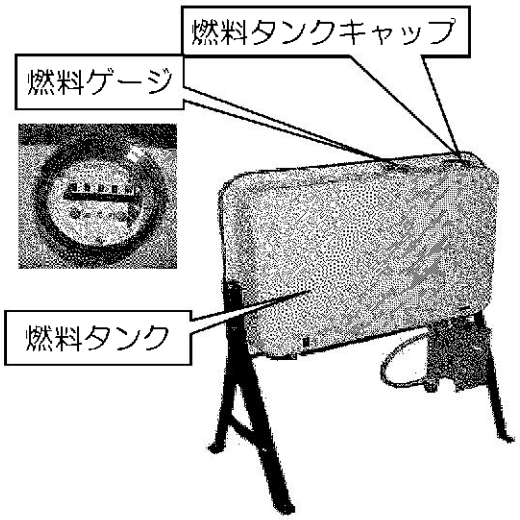
※燃料ポンプのコネクター部は、確実に接続してください。
ポンプの作動不良の原因となります。



⚠警　告

燃料パイプの継ぎ手部から燃料漏れが無いことを、確認してください。
電気ケーブルは炉本体に触れないようにしてください。
燃料タンクは、炉体より2m以上距離を保って設置してください。

5．運転方法



1）燃料タンクに白灯油を入れる。

燃料タンクキャップを開け燃料を入れてください。
（満タン約９０Ｌ）

・運転中は燃料を切らさないように、時々燃料ゲージを確認してください。

・不足している場合は、適宜補給してください。

※燃料が無い状態で運転を行うと、燃料ポンプが破損しますのでご注意ください。

⚠ 警　　告

ガソリン・シンナー使用禁止
燃料にガソリン・シンナー等の揮発性の高い油は絶対に使用しないでください。
引火して、爆発・火災の原因となり大変危険です。

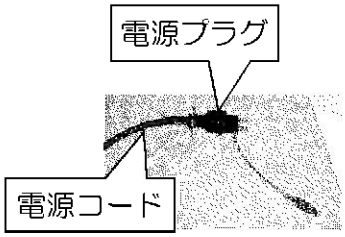
2）着火手順

（1）電源プラグを電源に差し込んでください。
（ＡＣ１００Ｖ）
この際に、バーナースイッチボックスのすべてのスイッチがＯＦＦになっていることを確認してください。

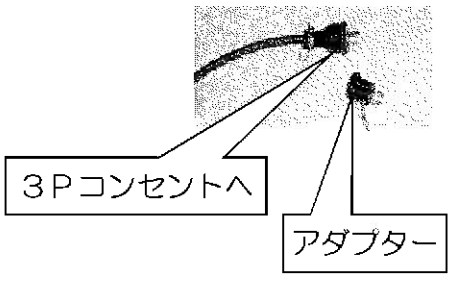
2Pコンセントの場合、プラグにアダプターを取り付け差し込んでください。

3Pアース付きコンセントの場合、アダプターを外し、プラグを差し込んでください。

2Pコンセントの場合



3Pアース付コンセントの場合

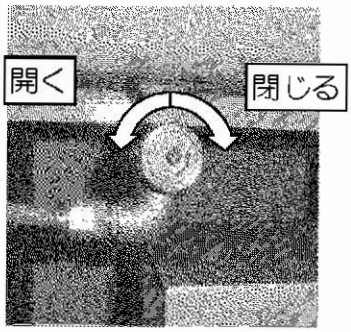


⚠ 警　　告

事故防止のため、アースを必ずとってください。
漏電やプラグ外れによる停電が無いように、
確実な配線をしてください。
焼却中に停電すると不完全燃焼となり、
未燃ガスが排出する恐れがあります。

（2）バーナーに点火し二次燃焼室を予熱する。

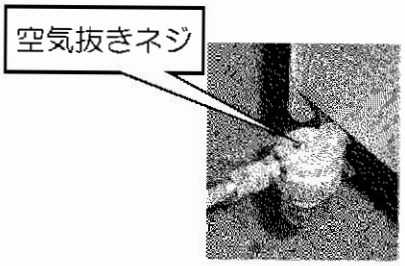
① 燃料タンク下部にある燃料バルブを全開にしてください。

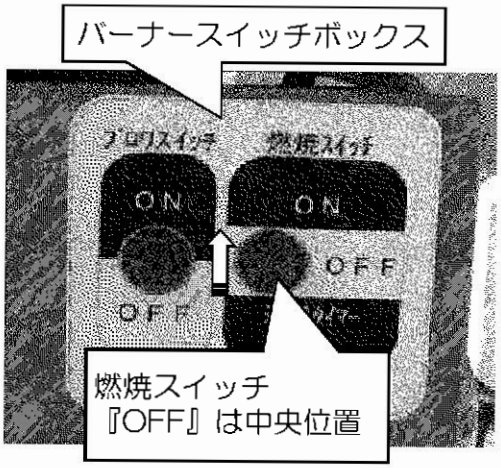


② ストレーナーに空気又は水分が混入していないかを確認してください。

（a） 空気が混入していた場合はストレーナーの空気抜きネジをマイナスドライバーで緩め内部の空気を抜いた後、ネジを締めてください。

※燃料が少し染み出たら、空気が抜けた状態になります。

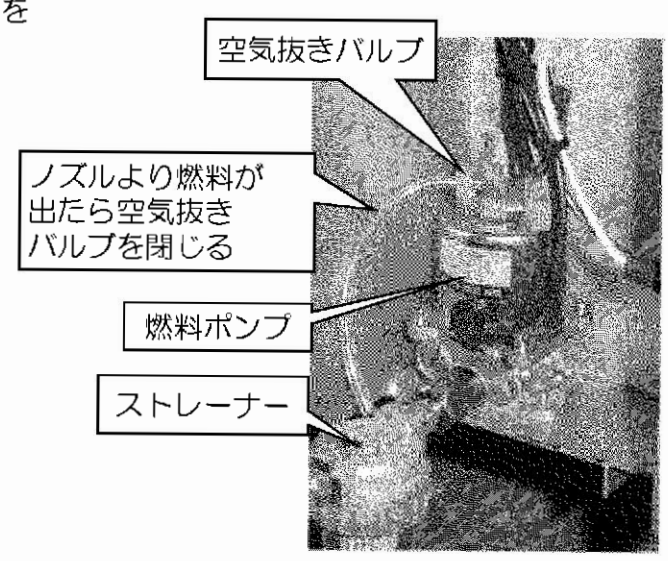




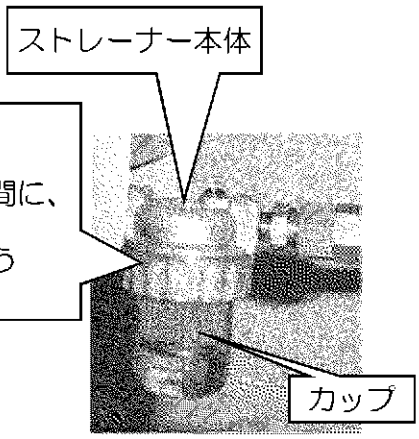
（b）バーナースイッチボックスの燃焼スイッチを『ON』にして燃料ポンプを作動させてください。

燃料ポンプの空気抜きバルブを開きノズルから燃料が出るまで空気を抜いてください。

その後バルブを閉じ、燃焼スイッチを『OFF』にしてください。

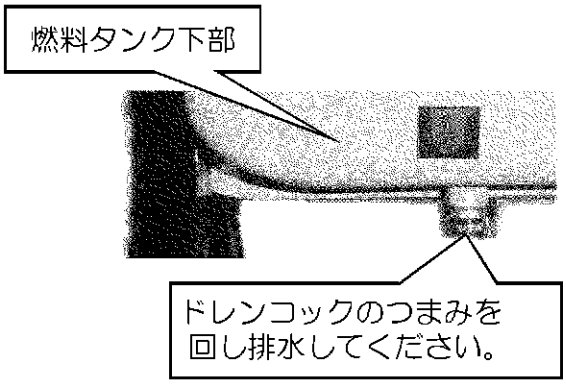


（c）ストレーナーの中に水分が混入していたら
カップを外しストレーナー内の水分を
除去し、フィルターを掃除してください。
（バーナー取扱説明書：P7参照）



（d）燃料タンク内の水分を排水してください。

タンク下部にあるドレンコックを開き、
タンク内の水分を排水してください。



⚠ 注　意

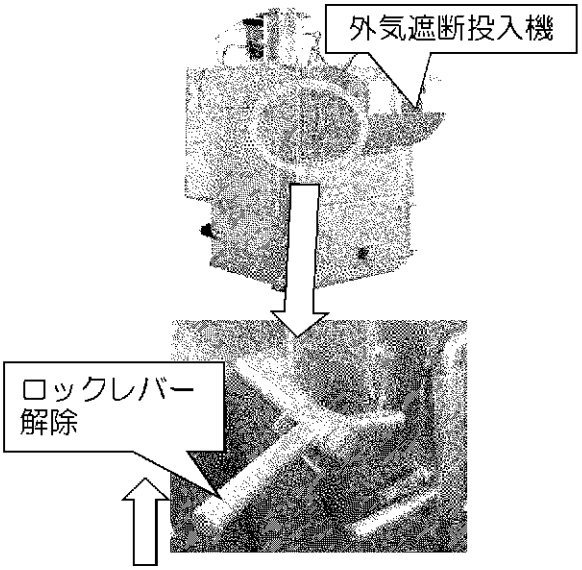
燃料タンクに水分が混入すると燃料ポンプの性能低下や、バーナーの燃焼不良原因となります。又、燃料タンクは、空にならないように注意してください。

（3）外気遮断投入機を開き、炉内に焼却物を入れ着火してください。

① 外気遮断投入機本体の開閉

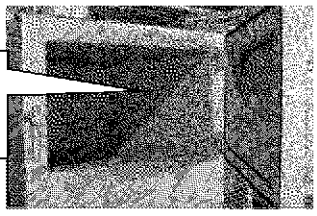
バーナー着火後初めて焼却炉本体より焼却物（大型の焼却物）を投入する場合は、ロックレバーを上げて解除し、外気遮断投入機を開き投入作業が終わりましたら外気遮断投入機を逆の手順で閉めてください。

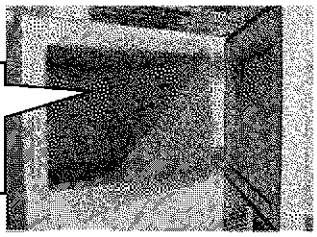
プラスチック類は、木材等を燃焼させ
炉内を加熱してから投入してください。



⚠ 注　意

プラスチック類の一回の投入量は焼却能力の5%が限度です。それ以上投入すると黒煙が発生しやすくなります。
プラスチック類投入直後は空気口を絞ってください。その後は、黒煙が発生しないように空気口を調整してください。
合板等は、発熱量が大きく炉内に投入する時は焼却能力の5%が限度です。それ以上焼却すると、バーナーや温度センサー等の破損原因となります。

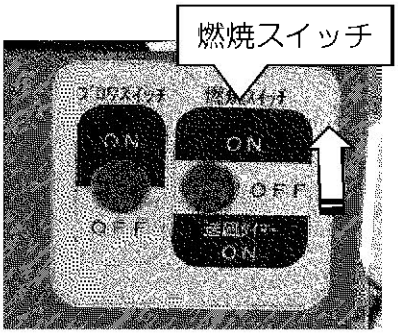




② バーナースイッチボックスの燃焼スイッチを『ON』にしてください。

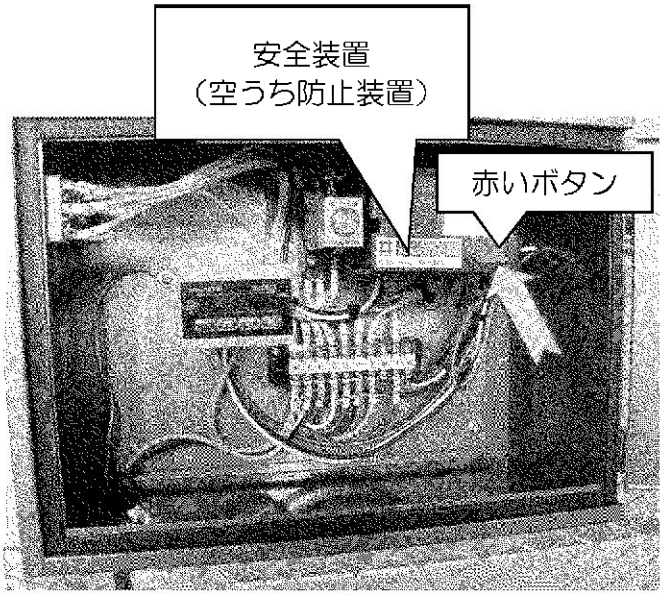
約２５秒後に自動的に着火します。

この状態で５～６分間運転してください。



⚠ 注　意

初回、燃焼スイッチを操作しても燃料（白灯油）がバーナーまで届く前に安全装置が作動しバーナーの作動が停止する場合があります。
その場合、スイッチボックスの蓋を開けて、赤色のボタンを押してください。
５回以上繰り返し押しても着火しない場合は、弊社または、購入した販売店にご連絡願います。



⚠ 危　険

◎ 危険物の焼却炉への投入禁止

○ 引火性の高い物…ガソリン・シンナー・ベンゼン・エチルアルコールなど

○ 爆発が起こり得る物…スプレー缶・火薬・密閉された缶など

○ 毒物…水銀・ヒ素・黄リンなど

○ 劇物…クレゾール・トルエン・硝酸など

○ 上記以外にも、危険性のある物

⚠ 警　告

バーナースイッチボックスの燃焼スイッチが『OFF 』状態で焼却運転は、絶対に 行わないでください。
バーナー破損の原因となります。

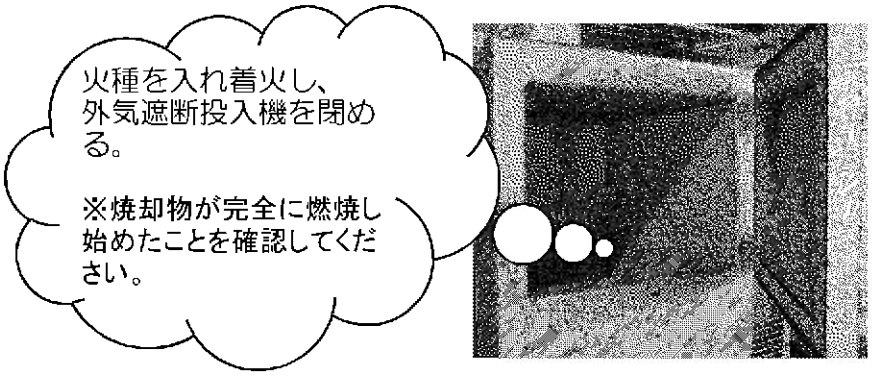
③ 外気遮断投入機を開き炉内の焼却物に火種を入れ、着火します。
焼却物が完全に燃焼し始めたことを確認してください。

⚠警　告

- 塩化ビニール製品は絶対に焼却しないでください。
  塩化水素の有毒ガスが発生して大変危険です。

- スプレー缶等は絶対に焼却炉に入れないでください。
  爆発・火災の原因となり、大変危険です。

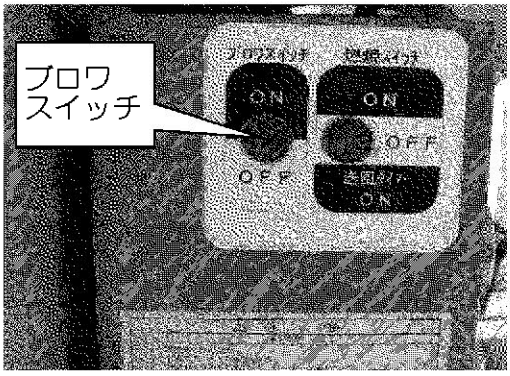
- 作業時、扉に指等を挟まないように注意してください。
- 焼却中は投入口や灰出し扉を開かないでください。
- 各扉を閉じる時は、パッキンに投入物を挟まないようにしてください。



④ 外気遮断投入機を閉め、次にスイッチボックスのブロワスイッチを『ON』にしてください。

（ブロワーのバルブの開き方は出荷状態では全開になっています。）

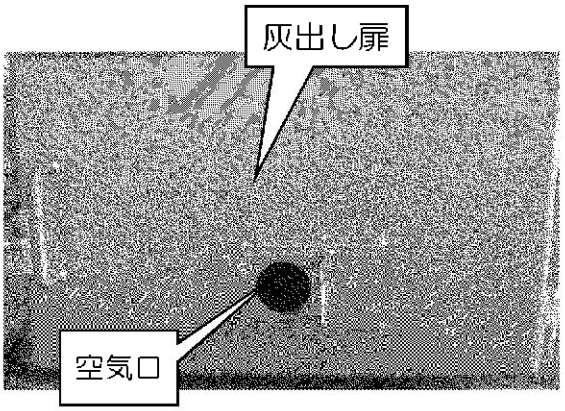
通常は全開のままで使用します。



⑤ 煙突から煙・炎が出る場合は、煙・炎が出ない程度に、空気口の開き具合を調整してください。

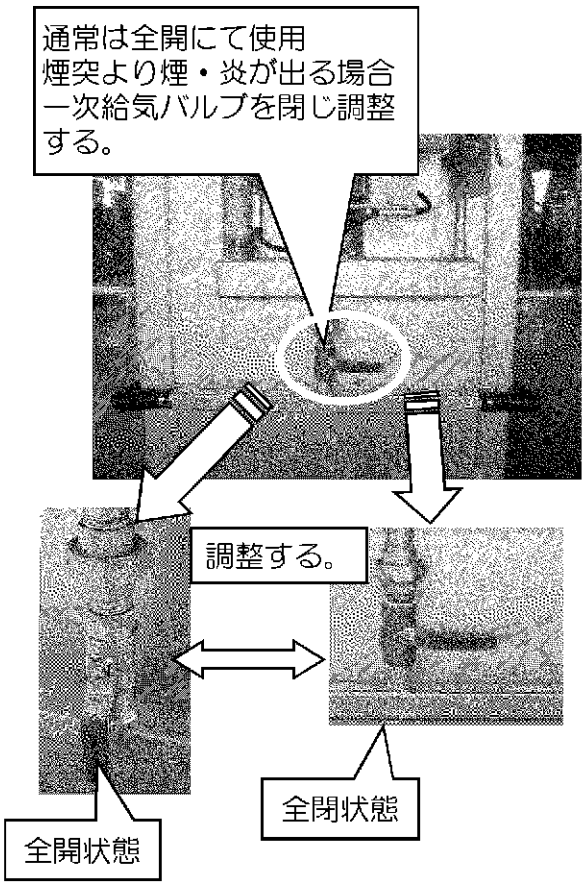
空気口は開けば開く程、燃焼は早くなりますが煙突からの煙量が増えます。
煙・炎の出具合によりバランスを取りながら調整してください。

紙・木材・ダンボール等は、空気口の開きを大きく、油布ゴム・プラスチック・合板等は、小さくします。



⚠ 警　告

- 焼却中は、炉本体の投入機は開けないでください。
  急激に炉内に酸素が送り込まれると、炎が吹き出し、火傷をする危険があります。
- 炉本体、煙突に手を触れないでください。
  高温のため、火傷をする危険があります。
- 空気口や一次給気バルブを、必要以上に開けないでください。
  不完全燃焼の未燃ガスがバックファイヤーを起こし、火傷をする危険があります。



⚠ 注　意

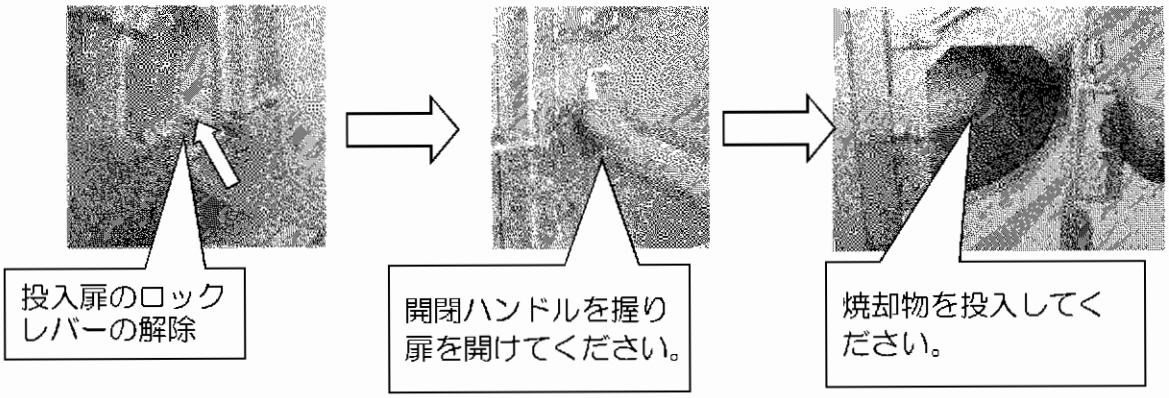
使い始めの注意点

- 3日間位は1時間の焼却物投入量を木材約5kgにて慣らし運転を行ってください。
- 急激に炉内温度を上昇させると耐火セメントの脱水時の蒸気化が急激に起こり炉壁内に大きな蒸気圧が発生しそのエネルギーによって爆裂のような現象が起こり、炉壁を破損することがあります。
- 2～3日間は本体（炉体）底部、投入口（投入機）裏側の耐火セメントから水滴が出る事があります。
  これは耐火セメントの水分が高熱によりにじみ出た物であり、異常ではありません。
- 一週間位の間に炉体や投入口（投入機）及び灰出口（下扉）裏側の耐火セメント部に割れ（ヘアークラック）が入ることがありますが異常ではありません。

3） 投入口使用方法

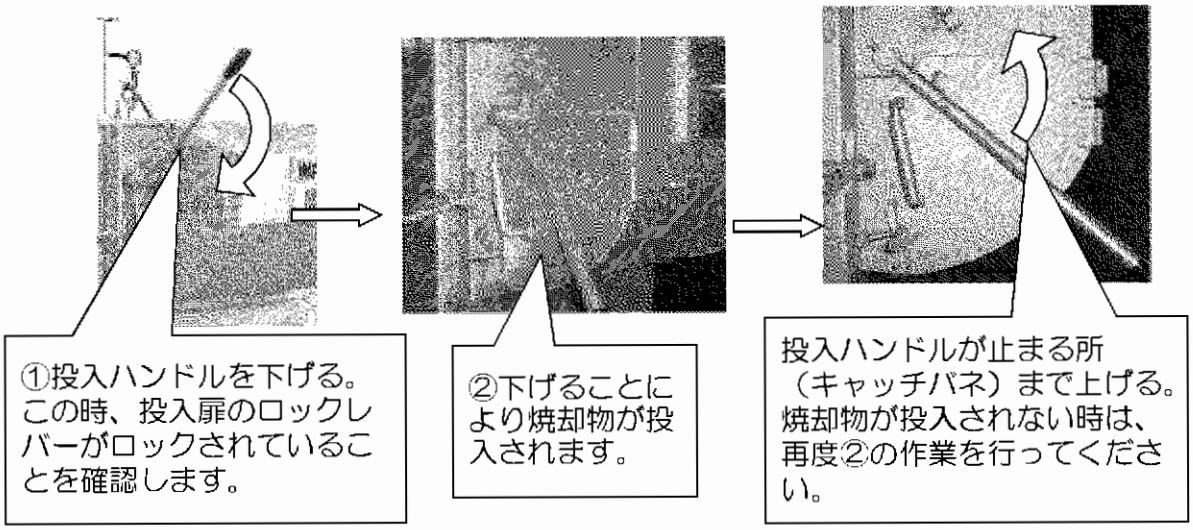
（4）投入口より、焼却物の投入。

投入扉のロックレバーを上げてロックを解除し、扉を開け焼却物を投入します。
投入後は扉を閉めロックレバーを下げて扉をロックしてください。



（5）投入ハンドルを操作し焼却物を投入してください。

投入ハンドルを下げることにより焼却物が焼却炉内に投入されます。

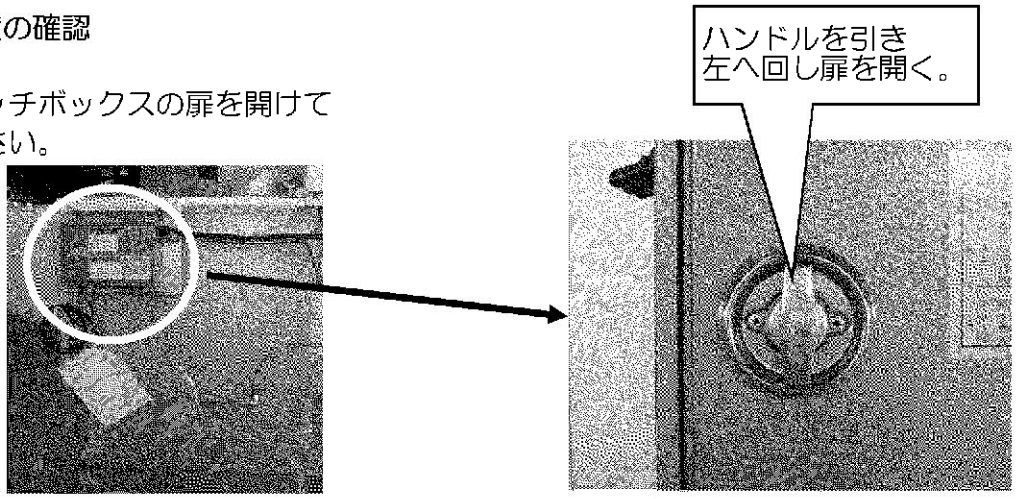


⚠ 注　意

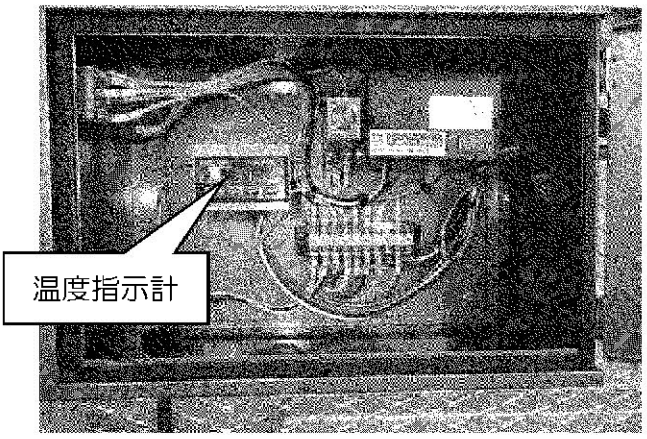
- 事故防止のため、投入扉を開けた状態での焼却物の投入は、投入ハンドルが投入扉に当たり、投入ハンドルが下がらない構造になっています。
  投入扉を開口時、投入ハンドルを操作しないでください。
  投入扉の破損や、投入扉に隙間ができシール不良の原因になります。
- 投入ハンドルを押し込んだ状態で投入機を開閉しないでください。
  炉内の耐火セメントを傷つけるおそれがあります。

4）燃焼温度の確認

（1）スイッチボックスの扉を開けて
ください。



（2）スイッチボックス内にある温度
指示計の温度を確認してください。



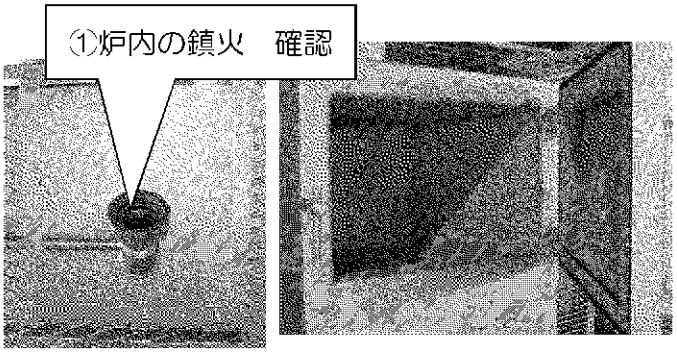
⚠ 警　告

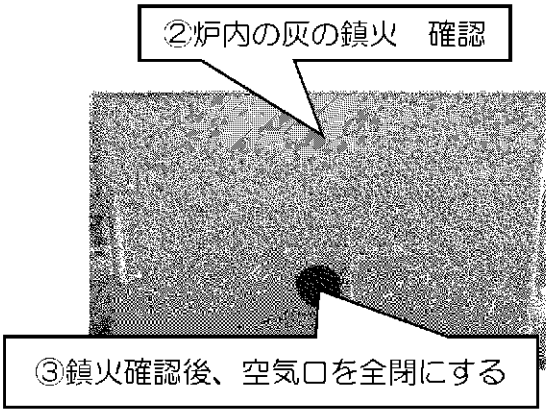
- 雨天や積雪等の天候時は扉を開けないでください。
  感電や停電の危険があります。
- ボックス内は交流100vの電気が流れていますので
  ボックス内には手を入れないように注意してください。
  感電の危険があります。
- 温度指示計のボタン操作は行わないでください。
  正常な温度を表示しなくなります。

4）消火手順

（1）側面に設置されているのぞき窓で、炉内鎮火を確認してから、炉内の灰も付属の灰掻き出し棒を使って、完全に鎮火していることを確認してください。

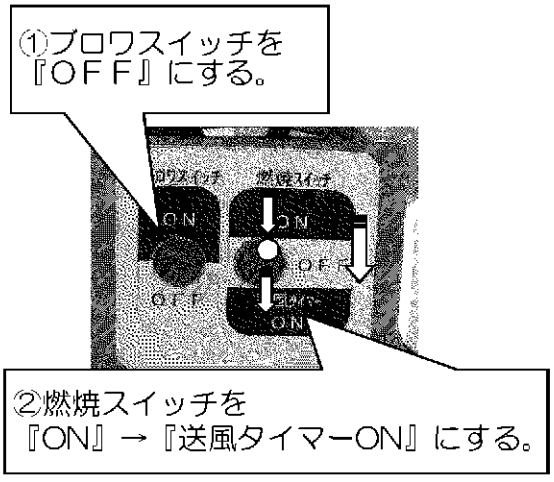
その後に、空気口を全閉にします。





（2）バーナースイッチボックスのブロワスイッチを『ＯＦＦ』にしてください。
燃焼スイッチを『送風タイマーON』にセットしてください。

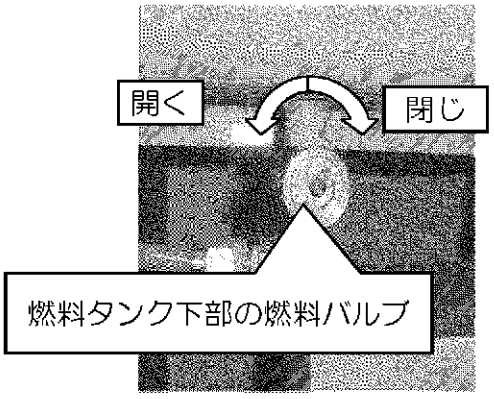
自動的に60分間送風運転後、停止します。



⚠警　告

バーナースイッチボックスの燃焼スイッチが『ＯＦＦ』又は『タイマー』の位置で焼却運転は、絶対に行わないでください。
バーナーの破損原因となります。

（3）燃料バルブを全閉後、電源プラグを電源から抜いてください。



6．保守・点検

⚠ 警　告

炉内及びスパークバー・バーナーノズル等の点検・清掃・調整する時は、
必ず電源を切ってから行ってください。
（電源プラグを抜いてください。）

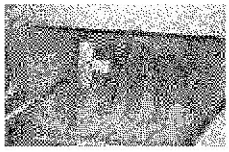
感電する恐れが有ります。

灰が溜まらないよう常に炉内を掃除してください。灰は、
燃焼用空気通風の妨げとなり、焼却状態に悪影響を及ぼします。

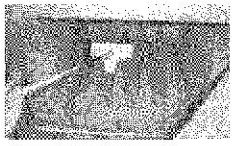
※灰出し作業時には
　安全靴・保護メガネ・手袋・マスクを使用してください。

１）灰掻き出し棒を使い、
　　灰を炉内から掻き出してください。

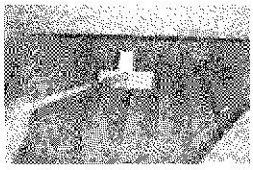
（１）側面溝の掻き出し



（２）中央溝の掻き出し



（３）中央上部の掻き出し



⚠ 注　意

取り出した灰は産業廃棄物として処理してください。

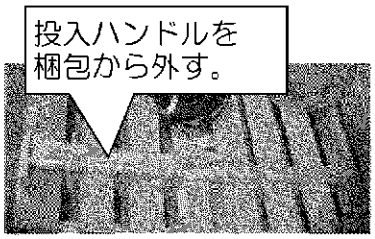
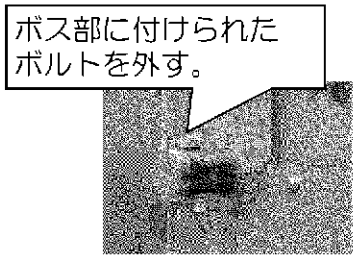
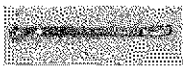
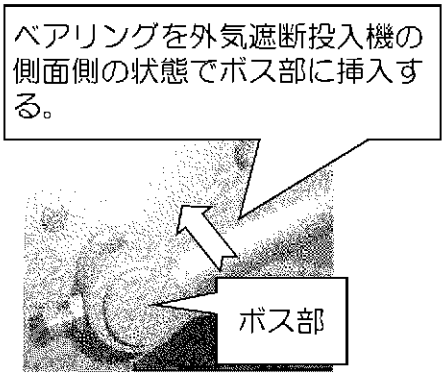
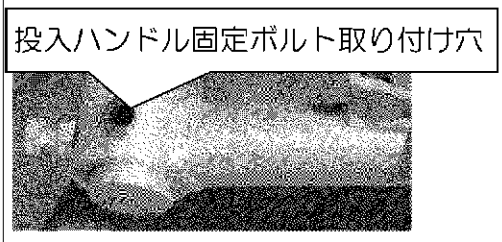
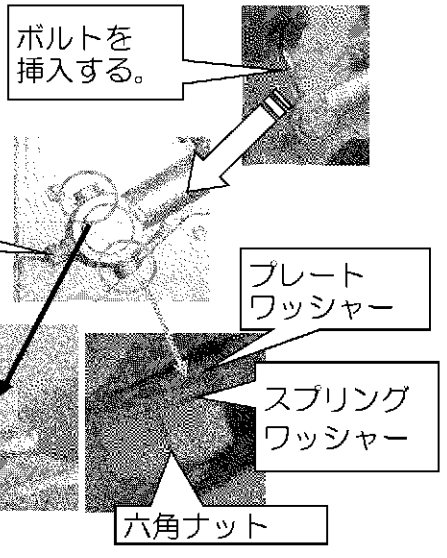
7. 故障かな？と思ったら　現象とその対応

No.	現　　象	原　　因	対　応
1	煙突から煙が出る。	1）バーナーが消火している。 a）燃焼スイッチが入っていない。	スイッチを『ON』にする。
		b）燃料バルブがしまっている。	燃料バルブを開ける。
		c）燃料が入っていない。	燃料（白灯油）を補給する。
		d）停電時に一時的に通電が停止している。	燃焼スイッチを一度『OFF』にし、再度『ON』にする。
		2）投入扉が開いている。	投入扉を閉める。
		3）灰出し扉が開いている。	灰出し扉を閉める。
		4）発泡スチロール、プラスチック等を大量に燃やしている。	空気口、一次給気バルブを閉め調整を行う。
		5）一次給気バルブが全開になっている。	一次給気バルブの調整を行う。（閉める方向に回す）
		6）灰出し口の空気口が全開になっている。	空気口の調整を行う。（閉める方向に調整する）
2	煙突から炎が出る。	1）投入扉が開いている。	投入扉を閉める。
		2）灰出し扉が開いている。	灰出し扉を閉める。
		3）一次給気バルブが全開になっている。	一次給気バルブの調整を行う。（閉める方向に回す）
		4）灰出し口の空気口が全開になっている。	空気口の調整を行う。（閉める方向に調整する）
3	一次燃焼室の燃焼物が立ち消えしている。	1）一次給気バルブ、空気口が全閉になっている。	バルブ、空気口を開け、再着火を行う。（着火時バックファイヤーに注意すること）
4	バーナーのファンが回らない。又はブロワが回らない。	1）電源が入っていない。	電源をつなぐ。
		2）コンデンサーが破損している。	コンデンサーを交換する。
		3）モーターが破損している。	モーターを交換する。
5	バーナーが点火しない。	1）電源が入っていない。	電源をつなぐ。
		2）バーナーの安全装置が作動している。	燃料が空になっていないか、燃料バルブが閉じてないか確認し、燃料（白灯油）補給または、燃料バルブを開ける。スイッチボックス内の赤いボタンを押す。
		3）燃料バルブが閉まっている。	燃料バルブを開ける。
		4）燃料が入っていない。	燃料（白灯油）を補給する。
		5）イグナイターが破損している。	イグナイターを交換する。
6	バーナーの炎が消えた。	1）燃料がない。	燃料（白灯油）を補給する。
		2）停電時に一時的に通電が停止した。	燃焼スイッチを一度『OFF』にし、再度『ON』にする。
		3）バーナーの安全装置が作動した。	スイッチボックス内の赤いボタンを押す。

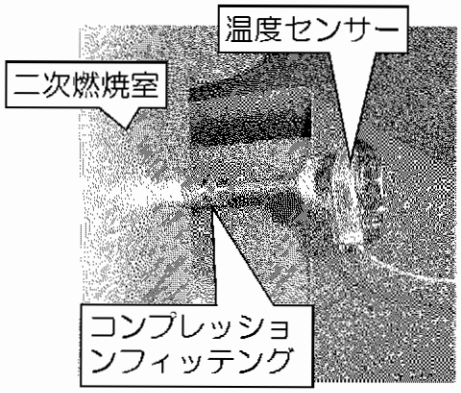
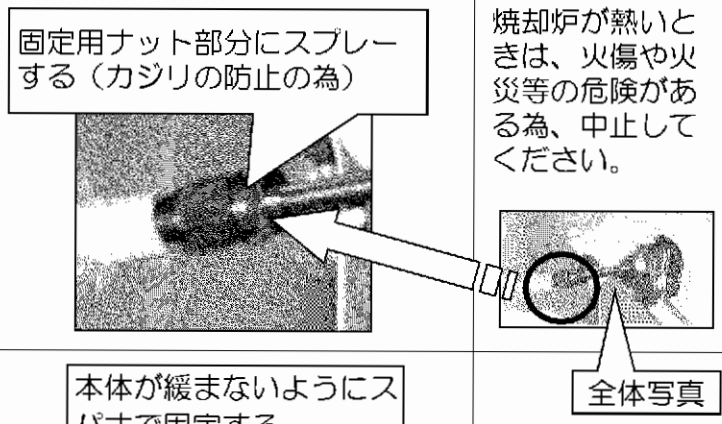
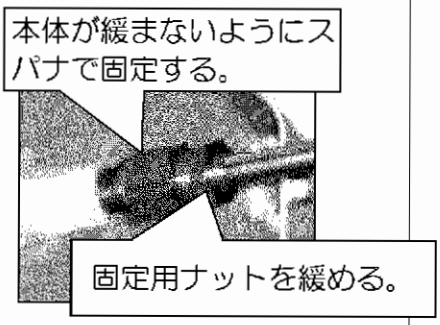
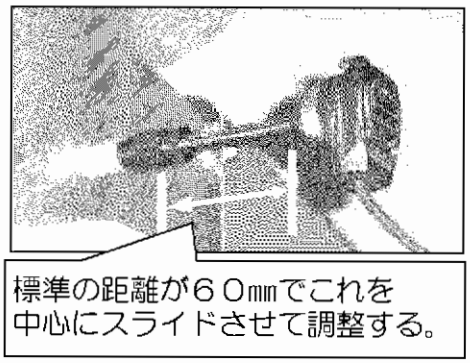
No.1-1）-b）・-c）／　5-2）・-3）・-4）／　6-1）・-3）項の対応は、本取扱説明書の15ページ注意枠内に記載された、初回燃焼方法操作を再度行ってください。

燃料がバーナーまで届いていない場合があります。

8. 外気遮断投入機　投入ハンドル組み付け要領

No	作業内容	参　考	備　考
1	投入ハンドルを梱包から外す。		はさみ又はカッターを使用、けがに、ご注意ください。
2	外気遮断投入機ボス部に取り付けられてる六角ボルト及びプレートワッシャー・スプリングワッシャー・六角ナットを、スパナ又はメガネレンチ等の工具を使用し外す。		使用工具 １３㎜メガネレンチ 又はスパナｘ２本 
3	投入ハンドルの中央付近に取り付けられているベアリングを外気遮断投入機側面に合わせ、投入ハンドルを外気遮断投入機ボス部に挿入する。		
4	外気遮断投入機ボス部と投入ハンドルの穴を合わせる。		
5	合わせた穴に、六角ボルトを挿入しその後、プレートワッシャー・スプリングワッシャー・ナットを組み付ける。 ナットを一時的に緩め、ボルトを締め付け後にナットを固定する。 ボルト・ナットを取付け固定する。		使用工具  ・１３㎜メガネレンチ又はスパナ×2本 ・プラスチックハンマー

9. 温度計センサー取付・調整　要領

No	作業内容	参　考	備　考
1	温度センサーをコンプレッションフィッテング（以後：フィッテング）に挿入する。		
2	フィッテングのセンサー固定用ナット部分に浸透性潤滑剤をスプレーする。		焼却炉が熱いときは、火傷や火災等の危険がある為、中止してください。
3	フィッテングの固定用ナットをスパナ（サイズ：１７㎜）2本を使用し軽く緩める、（温度センサーが軽く動く位に仮締めする。）		
4	センサーを前後にスライドさせ調整する		調整時燃焼室側に極端に接近しないよう注意してください、センサー破損の原因となります。
5	調整後、3項で緩めたフィッテングの固定用ナットを本締め付け固定してください。	3項写真参考	締め付けトルクは、センサーが手で軽く力を加え動かない程度にしてください。
7	以上で作業終了です。		

メ　モ